

災害対応ロボットの屋外実証拠点（福島ロボットテストフィールド）の整備について

1. 必要性和ニーズ

- ロボット技術は、原発に限らず災害対応等での活用が期待される。他方、災害対応のためのロボット技術は未だ発展途上。このため、実際に操作するオペレーターの訓練も含め、ロボット技術の開発・実証・実用化に向けた拠点（テストフィールド）が必要。
- 災害対応ロボットの研究開発・実証試験、これを操作するオペレーターの教育・研修等を実施し、非常時には各種ロボットの出動体制を有する総合的なロボット開発・実証拠点（福島ロボットテストフィールド）の整備を検討すべき。
- このようなテストフィールドに対して、例えば、防衛関連等の官側ニーズや、メーカー等の民間ニーズが期待される。

2. 実現に向けた課題

- 民間・政府におけるロボット技術開発のニーズを取りまとめていくことが必要。
- 施設の運営について、将来的には利用者からの徴収による独立採算型となる仕組みの構築が必要。
- 関連法規の特例を設ける特区の検討が必要。

3. 今後の検討体制

- 産学官の関係者を集めて詳細検討を行う。
- 様々なユーザーからの意見を集約して、持続可能なロボットテストフィールドの仕組みの検討を進める。